

ご近所の お医者さん

□
694
□

八木小児科副院長 **八木由奈さん** 八尾市

医療の本質とは

私たち小児科医にとって、赤ちゃんは、実はとても貴重な「先生」であることをご存じですか？

言葉を持たない赤ちゃんは、体の動きや表情、声のトーンなどを通じて自分の気持ちやニーズを伝えます。この非言語的なコミュニケーションを読み取り、適切

に対応するために、小児科医として、さらには一人の人間としての高度な観察力と共感性が求められます。

赤ちゃんは、時に医療の枠を超え、人間性やケアの本質について深い教訓を

与えてくれる存在なのです。

赤ちゃんは、小児科医にとって最も純粋で素直な患者さんでもあります。

病気になるれば不機嫌になりますが、治った時は、よく笑い、よく食べ、元気いっぱいの状態に戻ります。医師からすると、赤ちゃんほど素直な患者さん

赤ちゃんを通して学ぶ

す。

はいなのです。ほかに、小児科医として赤ちゃんから教えられたことはたくさんあります。病気で脳に大きなダメージを受けた赤ちゃんの担当になった時のことです。脳の画像検査などから、この赤ちゃんは歩くことはできないと思われるので、トコトコと歩けるようになったのです。生き残った脳の部分が損なった運動能力を補ったのです。以来、私

は安直に、悲観的、断定的な説明はするべきでないという教訓を得ることができました。

また、赤ちゃんとの関わりで、例えば子どもの目線で話しかけたり、診察前にちょっとした遊びでコミュニケーションを図ったりすることを通じて、信頼と愛情の大切さを学びました。赤ちゃんが安心して医療スタッフに身を任せる姿は、医療の本質が単なる治療

だけでなく、心のケアでもあることを教えてくれました。

このように、赤ちゃんは、小児科医にとって最も純粋で、教訓を与えてくれる存在です。赤ちゃんから学ぶことは、医療技術や知識だけでなく、ヒューマンスキルや心のケアの本質にまで及びます。小児科医にとって、赤ちゃんは医療の本質を思い起こさせる、より良いケアを提供するための気づきを与えてくれる「先生」なのです。

